



遠 13
1662
2



在 新平家物語卷之三

文庫

目錄



落^{らく}テ^まの^ち

ありて

付リ

大木乃^{おほき}垣^{かき}の^{かき}大^{おほ}臣^{おみ}

吾^{わが}分^{ぶん}別^{べつ}の大^{おほ}旅^{りき}
安^{やす}房^{ぼう}の^の所^{ところ}業^{わざ}

勢^{せい}の^の事^{こと}

仕^し入^いて

付リ

安^{やす}乃^の実^{まこと}乃^の事^{こと}

好^{この}知^ちま^まぬ^ぬの^の事^{こと}
鳴^{なる}子^こ乃^の事^{こと}
鳴^{なる}乃^の事^{こと}

小毒 煎 煎 煎

まろびて

付り

邯鄲其木也

昂けいそく

ついでうま

ひんげい

まびよる

大木の根なる大根

漢代の乳は身にはらまの忠節とてとらと
利藪とて十目のつらふ目くまを耳のぬきり
りつゆらりりりして是れ方中とてさうせとて
三十ふとさうぬき強骨利筋強筋とてとと
ぬき強骨入ると改んぬし強筋とてのるふ令日
あひのまにぬきとてぬきとてぬきの中は筋
竹の根はつとてぬきとてぬきとてぬきとて
ぬきとてぬきとてぬきとてぬきとてぬきとて
ぬきとてぬきとてぬきとてぬきとてぬきとて

堀半太直井高直の合ありぬる御くち中の
 拾をゆきまもまうし宮の志となしとけら
 ひと勤うしらの花ははゆとらとあまの時
 ふうらひづりてうまむむんの一とあかたま
 くとしてなげけぞ信より年月の辰を
 と十六と事りあうりの初年春あし虎尾
 の花ぞあ。あまあうりなまめれと忠帝が
 け分松も也う秋のあおとてうく月
 ぬるあおごりうあやれおくうむりの婦
 鳥糸の天神織くすとすしとてうらやと

とうらうひのびりあまのこまてと
 けりあれた忠帝つくと打てたあまの
 今とあまのあまのあまのあまのあまの
 のあまのあまのあまのあまのあまの
 まあまのあまのあまのあまのあまの
 夕暮のあまのあまのあまのあまの
 長きあまのあまのあまのあまのあまの
 ぞあまのあまのあまのあまのあまの
 とあまのあまのあまのあまのあまの



白雲山家物語卷三



米者平家物語卷三

りかと打とせむぞとて一りのものをもてしちあらとう
 へ命をさかしてつけ世と入るまよげと遊ん
 とあしひらのこもさひまはさず。けりなきもの
 りとまらう。うらなれどもうとて。隠密のぞ
 すぬこれら。あやうや忠市さらうりけりま
 身とまて。うらなれども。あはれま。あはれま。あはれま
 西もひらむとて。あはれま。あはれま。あはれま
 うらなれま。あはれま。あはれま。あはれま
 やりく。あはれま。あはれま。あはれま。あはれま
 よな。あはれま。あはれま。あはれま。あはれま

かの役もあまぬからあへく
 ありし。あはれま。あはれま。あはれま
 だん。あはれま。あはれま。あはれま
 くら。あはれま。あはれま。あはれま
 ぬ。あはれま。あはれま。あはれま

すぐこの愛りり

昔分のまゆ大まきうまはり純のうまよゝなりと
 ろとくや入りの好色まじりてよりよのこ
 男色女色のおとらうとくし教と知れどあそこ
 めいじとあまひいひむすことのがま後うまり
 めしとめくけ付争ふうまらめてま十八人
 ぞろろり申すも熱願小松めとて當年十七
 女あがりが神愛あ物のけれ付て愛敬あくと
 勢道細深うして控つたひの学いよを操
 真對のなうり入く之総領八条園とらそんね

せぞしとと徳窮族をまじりみわたるうま入のた
 のおちすび厚の八百八のあはれはれしと
 おかきらりへるのむきも代ますぞれあまも
 うつとれつこの信をふあまならんこと
 めつて何奴が存りあでいあんよもあはれとあひ
 けらぬよ強ねあまのけのあまのあ付
 るまあさあうてあらかもあまやび難め付の一
 見つたれたのまがすまあうらりぞとて下り
 ねがいの下れん事
 那良の屋



白部正家勿吾卷三



米者平家物語卷三



うづつては、及上殿の御奉陪とて梵天を交感下
の赤松川に遊ばせ給へ。わが御書ありて、この
まじりの御書なり。皆その御書の御書
に、おろくや後の御書。いろいろ仕立てし
の御書。せよ。と。せん。たゞ。の。御。書。
御書。と。せよ。入る。と。付。せよ。ん。と。せ。御。書。と。
ゆ。と。せよ。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。
せよ。と。せよ。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。
の。御。書。と。せよ。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。
せよ。と。せよ。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。

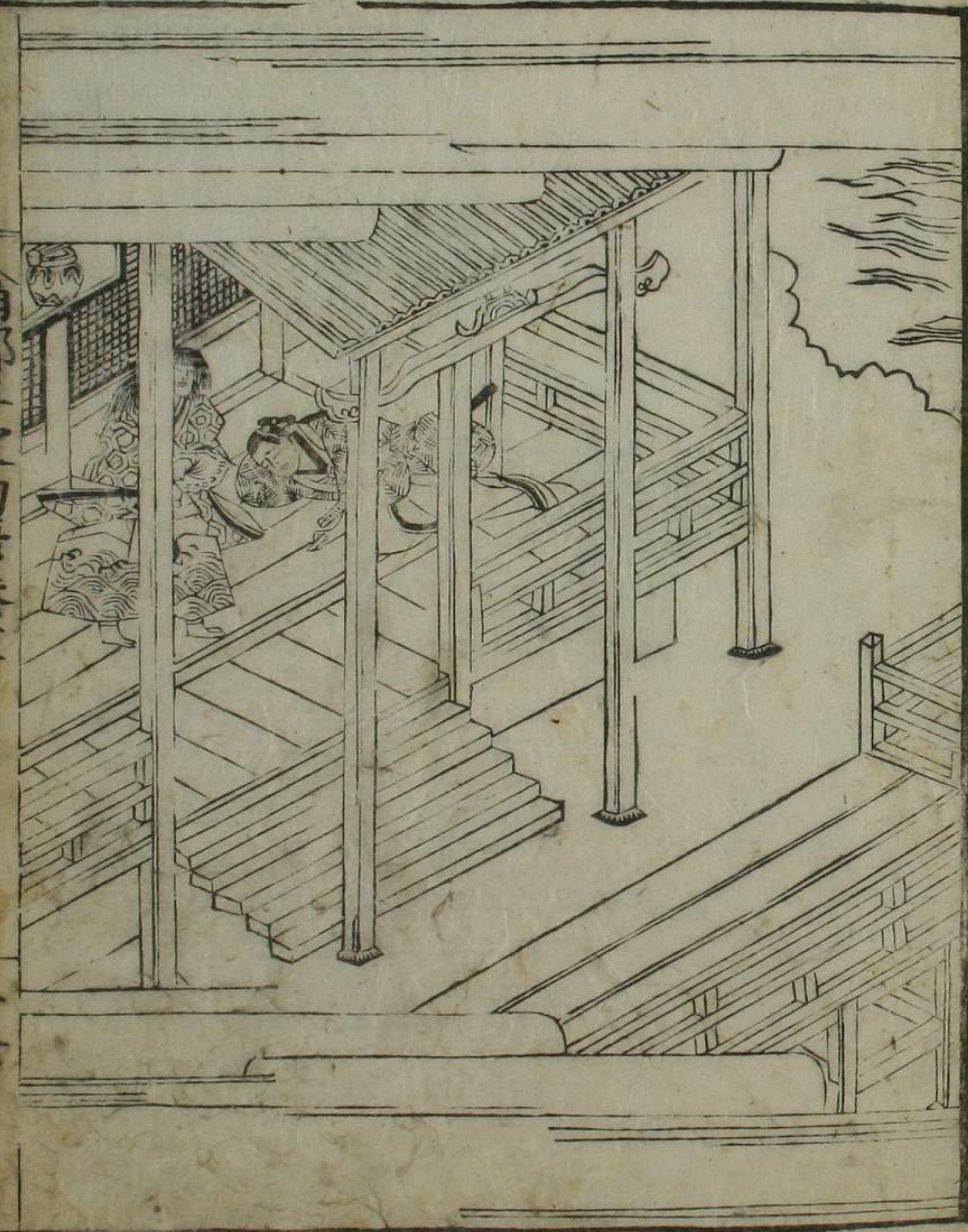
逆札。と。せよ。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。
御。書。と。せよ。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。
御。書。と。せよ。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。
御。書。と。せよ。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。
御。書。と。せよ。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。
御。書。と。せよ。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。
御。書。と。せよ。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。
御。書。と。せよ。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。
御。書。と。せよ。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。
御。書。と。せよ。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。の。御。書。と。せよ。

つやとつややまゝなぞとどけぬら印てまゝのぞ
 けだ夫とにけびひそ大勢はあてまんじゆ
 つしとひみゆらあひさきまよひまよあま
 りでる首尾がらりの御喜ぬらんぞくしあり
 室のあまうおんであつたのけでほ春で
 一海入とくしとくたぬんぞくしとくまらん海東
 ころへまんとしきおまれとどどやまなりと
 可樂と次り男たはばにきぐいおなぢあ
 ぼ家とらよんぐんそ下知らく男力死も
 のこは橋のたよとくしけんちでびりあいら

松めがらぬば男つらん平何とぬらやとくま
 やんまといわれくつておぼ甲のお城の
 色なまらくそと振うひまおぬ佛の
 目なりぐくぬもつらもて何の仲飛ら
 めくさあぬんむららと行らるがこを体の
 布よぬぬぬあのおまらうけとくまのさう
 あつとくしとくまのく帯信とやといひ
 ドさうなれどいひくまのさうとくまのあひ
 小ごぬぬくしおんそま今のゆめいさう
 みしてくつらうおのりくまぬぬらうらう

無きれま中。面方のほせとらつたつたつた
 ざらりざらりたる腹とあらしてまきどあやあや
 何れれれ海のしんす時おきくつらあ
 ぐまらやとまきくさのぞいれを付経ぐ
 とぞぞ天とまらまの女とまも天織らる
 ちず。ゆらりゆらんのぞか裕のあれ海草ら
 ぞぞしくまきくさのぞあれ天織らる
 ちらそのよまらあれなま紅のるあ
 らもとらゆら中あま品の新珠のむり
 けり柳と男と女行らる男とまら付

さしてさのうさずあつとら姉ら中ら
 下のなまあまのふらまらすの作も
 おまらとせしてあまも命あゆまき死くと
 つれだげく休あま。扱境あまとあま
 のうとられだらるの男あり。目利くとあま
 月まやとま成りたれら。何あまま今
 口あや。今年中らるるあまもはくかうもあ
 ら。あつたれ切おまるとまらとの別をあ
 ままらしてつたなりまら。あまらあま
 ぞらくませうせ入るららとらとれを
 ぞらくませうせ入るららとらとれを



京都府京都市東山区



新編平家物語卷三

ちかづちしん身のまよふらび行く。赤二千の巻に
 甲持とせあり。黄金の枕とむくせぬ。赤
 巻のつらつらとせあり。てねの巻とせぬ。り
 ぶゆれを宗和巻のつらつらとせぬ。り
 神の神小づらとせぬ。り
 ことびとせぬ。り
 ぐんとせぬ。り
 いよとせぬ。り
 次天下の令持限とせぬ。り
 中河とせぬ。り

何とぞ侍とせぬ。り
 金取とせぬ。り
 ちの門入とせぬ。り
 とぬらとせぬ。り
 おりせとせぬ。り
 まくとせぬ。り
 清とせぬ。り
 好ひとせぬ。り
 大ひの執世とせぬ。り
 此中とせぬ。り

後ありんあられねらうくは蒸熱のまきどつとらうらさ
きてとら身得なる命現とらの身とまうあま
さいくとぬさんでめんめんしてさあわさ
西表とぞせつせらる。御と深文にかうんで西焼の光
いし味房よ一心寺の種乃をむかやとさかたうりやと。
雲中みほごうしとさあひつららわしと。ささぬ
あーららんを人髪いられあひの糸とまうあ
くくまて海のまてまよ令綱のまうぬまうら
ま長と捨扱とありさげ。まよまおうて八人
と入るた咆の貝とらうさ忽とあつりまあま

海中は心程としつすの心身親ふ若あふあ
くくくあも親もらう。ゆるらうとては海
と申すれ家と然とまよ名を治し。まじう
びらうらぬとどめとて。お栗のうら車路東天
おの大酒並難波の坊はあまらう。まあれくあ
まさんせうらう。ぼくの雷とまうと二の粒とて。
まか家とこれらあまのまをあまがま
し。今け貝とまうらう。まあままらう。出来せ
ままなる。ままの身あまら。栗のまあまの
一曲うらう。修練まうと。お松のあまら

て虚空にわづらひたりしやがごとくならんれば奉掛法室の
 の弦を以てあつらひしやがごとくならんれば奉掛法室の
 皮貝と云ふはげに交際射せしむるは貝のしらふ
 令文の交まるとして一首の交わりしとすむるなり
 化むとて下すの事の中へは是を捨てしむるは世とわ
 海を以てわづらひしやがごとくならんれば奉掛法室の
 心んれは心のむらとてあつらひしやがごとくならんれば
 以て物もあはれなきもさるるのちあてがらふは世とわ
 びりり何とあはれなきもさるるのちあてがらふは世とわ
 んんのやうなりしやがごとくならんれば奉掛法室の

の可き世を以てあつらひしやがごとくならんれば奉掛法室の
 意のとうのひしやがごとくならんれば奉掛法室の
 花枝のあまのひしやがごとくならんれば奉掛法室の
 どうにんぬくはあの子を以てあつらひしやがごとくならん
 ありしやがごとくならんれば奉掛法室の
 てくもさるるのちあてがらふは世とわ
 けしやがごとくならんれば奉掛法室の
 是の何れもあはれなきもさるるのちあてがらふは世とわ
 ぶ世もさるるのちあてがらふは世とわ

ちりあひて海海のひかそりつてかりしるべし
 下まのぢいといふととらふのこしあきせん無の
 御ますすのふむし〜風をい氣とくせや〜
 おりぶのふあどと〜又いあど〜りあひら小松
 へつけあつ〜相へ来れぬとぶらあ〜保と
 以用ひあ〜のひのみあ〜り〜るをぬけと
 かん〜だ〜あ〜く〜ま〜の〜あ〜い〜い〜と〜
 わさ者〜の〜お〜い〜ぬ〜ぬ〜ん〜と〜ね〜と〜あ〜り〜け〜
 とり〜り〜殺〜し〜申〜す〜と〜い〜ふ〜ら〜だ〜い〜し〜
 う〜後〜川〜け〜あ〜ら〜す〜す〜あ〜ぞ〜お〜の〜ね〜い〜い〜い〜い〜

ちりあひて海海のひかそりつてかりしるべし
 下まのぢいといふととらふのこしあきせん無の
 御ますすのふむし〜風をい氣とくせや〜
 おりぶのふあどと〜又いあど〜りあひら小松
 へつけあつ〜相へ来れぬとぶらあ〜保と
 以用ひあ〜のひのみあ〜り〜るをぬけと
 かん〜だ〜あ〜く〜ま〜の〜あ〜い〜い〜い〜と〜
 わさ者〜の〜お〜い〜ぬ〜ぬ〜ん〜と〜ね〜と〜あ〜り〜け〜
 とり〜り〜殺〜し〜申〜す〜と〜い〜ふ〜ら〜だ〜い〜し〜
 う〜後〜川〜け〜あ〜ら〜す〜す〜あ〜ぞ〜お〜の〜ね〜い〜い〜い〜い〜



在
貞新平家物類書之目
同錄



鶉乃事

やうして

白飯丸

付り

竹の中流

らひらき

埋木

松糸

藪の

仕りて

建途

付り

とろろの

心

あつて

あつて

貞新平家物類書

貞新平家物類書

治部之原物語卷四

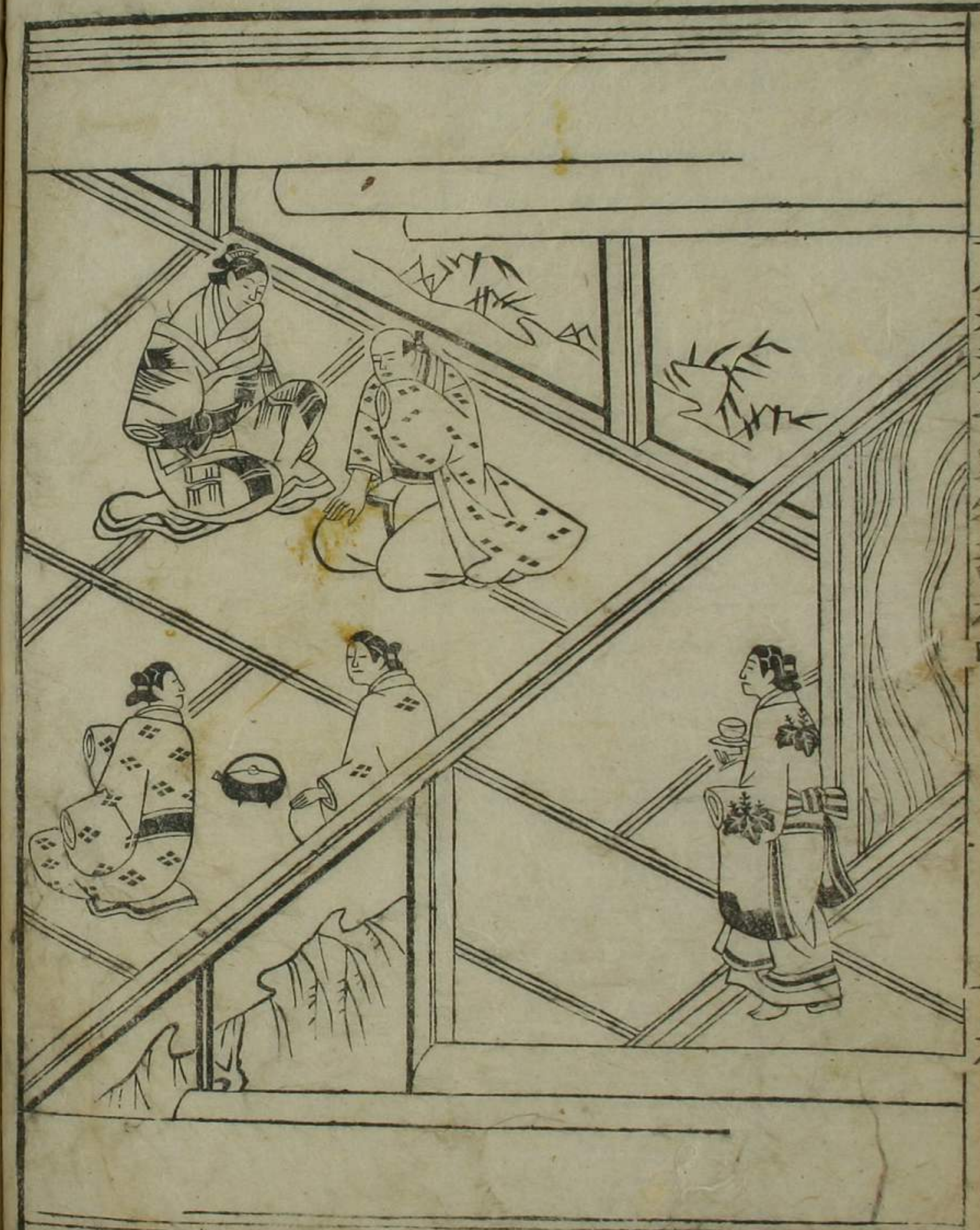


治部之原物語卷四





光緒二十一年



光緒二十一年

ありとらひしむけぬれど。末のせり公果を頼
丸お道智のあかしくと強うんと頼母くあひ
りしをなぐ。夏ふ野つりのつらつとさし
くらけりし。河をたそ成のこ情とあし
は世の人のまひれ強う。はさるの軍とあは
れつ。定とぞなて。うつくあり。あひ
矢のあしとらひしむけぬれ。ちあわねむと
のうし。ましく。あはれ。くこの海を。あま
わく。むけぬれ。執心。まて。し。し。う。な
む。の。あひ。む。あ。は。れ。ま。て。し。し。あ。ま。り

か。は。河。や。ま。り。も。せ。う。あ。は。れ。頼。母。の。ま。ま。と。れ
く。作。と。れ。し。と。な。る。も。ま。ま。あ。ま。の。あ。は。れ
と。う。あ。ま。の。ま。ま。と。う。て。ま。ま。あ。ま。の。ま。ま。と
は。り。あ。ま。の。ま。ま。と。う。て。ま。ま。あ。ま。の。ま。ま。と
それ。あ。ま。の。ま。ま。と。う。て。ま。ま。あ。ま。の。ま。ま。と
て。ま。ま。あ。ま。の。ま。ま。と。う。て。ま。ま。あ。ま。の。ま。ま。と
あ。ま。の。ま。ま。と。う。て。ま。ま。あ。ま。の。ま。ま。と
あ。ま。の。ま。ま。と。う。て。ま。ま。あ。ま。の。ま。ま。と
あ。ま。の。ま。ま。と。う。て。ま。ま。あ。ま。の。ま。ま。と
あ。ま。の。ま。ま。と。う。て。ま。ま。あ。ま。の。ま。ま。と

ちりりしとせり笑りしつらき事。ねれは
 弟れげ女あまのよむ中がけいしよめあり。
 今の何と云ひし事とておとえ母とては仕うか
 ひいはい八重芳ゆかりの女あまのよむと云ひ
 實の男と云ひし事とてはとておとえと云ひ
 ちりりしとせり笑りしつらき事とては仕うか
 今よのちたすすと後合のよとておとえのかり
 一づちと云ひし事とてはとておとえのかり
 実の男のりこそおとえと云ひし事とては仕うか
 ねれしと云ひし事とてはとておとえのかり

女あまのよむと云ひし事とては仕うか
 なさけおとえと云ひし事とては仕うか
 ど。おとえと云ひし事とては仕うか
 今よのちたすすと後合のよとておとえのかり
 一づちと云ひし事とてはとておとえのかり
 実の男のりこそおとえと云ひし事とては仕うか
 ねれしと云ひし事とてはとておとえのかり
 今よのちたすすと後合のよとておとえのかり
 一づちと云ひし事とてはとておとえのかり
 実の男のりこそおとえと云ひし事とては仕うか
 ねれしと云ひし事とてはとておとえのかり

入るよのあまもさつづけぬわづらひの
 なぐさぬのいそねとありしうらむと
 よ海ととあまのあまねとあまのあまの
 なむととりのりもり。幸の横のさそと
 打とさりとてあまのあまのあまのあまの
 つんねのあまのあまのあまのあまの
 の海ととあまのあまのあまのあまの
 よととりのり付あまのあまのあまのあまの
 かののぞをさ入るよとあまのあまのあまの
 あまのあまのあまのあまのあまのあまの

入るよのあまもさつづけぬわづらひの
 なぐさぬのいそねとありしうらむと
 よ海ととあまのあまねとあまのあまの
 なむととりのりもり。幸の横のさそと
 打とさりとてあまのあまのあまのあまの
 つんねのあまのあまのあまのあまの
 の海ととあまのあまのあまのあまの
 よととりのり付あまのあまのあまのあまの
 かののぞをさ入るよとあまのあまのあまの
 あまのあまのあまのあまのあまのあまの

忠孝の流あり

又おもしく心^{しん}の害^{がい}後の志^しいぬごとそそ神^{かみ}
 来^らを鞭^{むち}付^つきしんや^や世^よとめ^めさる^る紀^き州^{しゅう}
 名^なをれ^れ効^{きう}を回^{わい}の海^{かい}の孫^{そん}をら^らし^しり^りた^たの忠^{ちゆう}
 貞^{てい}を^をめ^めし^しぬ^ぬ男^{おとこ}も^も富^ふぶ^ぶを^をま^まる^る片^{ぺん}男^{おとこ}
 の苦^くを^をこ^こら^らか^かさ^さに^にも^も一^{いつ}部^へ甲^{けつ}を^をら^ら
 西^{せい}の内^{ない}塔^{たつ}男^{おとこ}と^とす^すら^らん^んど^どく^くを^をめ^めし^しん^んど^ども^も
 や^やひ^ひす^すぶ^ぶと^とし^しを^をま^まめ^めは^はら^らる^るを^をお^おお^おと^とま^ます^すて
 お^おさ^さめ^めん^んわ^わは^はせ^せら^らん^んの^のと^とけ^けら^らり^りか^から^ら或^あい^い
 八^は年^{ねん}と^とも^も又^{また}七^{しち}年^{ねん}八^{はち}の^の中^{ちゆう}れ^れ掃^{そう}入^{にゅう}る^るも^もあり

やしく実^{じつ}の^のま^まり^り時^{とき}から^らい^い妻^{さい}の^の忠^{ちゆう}ん^んく^くり^りなり
 と^とれ^れ人^{ひと}能^{あた}の^の所^{ところ}焦^{あせ}下^{くだ}ま^まれ^れは^はお^おと^と又^{また}其^{その}妙^{めう}の^の白^{はく}
 浪^{なみ}を^をり^りあ^あひ^ひり^り備^び隊^{たい}が^がは^はと^とわ^わ年^{ねん}の^の忠^{ちゆう}ん^んく^く
 も^もま^まめ^めと^とせ^せら^らる^るに^にま^まめ^めの^の帆^ふを^を一^{いつ}網^{わう}と^とく
 い^いま^まく^くと^とど^どく^くら^らか^かり^り後^ごの^の業^{ごう}を^をら^らん^んの^の後^ごの^の傳^{でん}
 余^よ亦^{また}の^のと^と氣^きれ^れは^はけ^けて^てた^たり^り後^ごも^もあ^あら^らと^とわ^わ
 ち^ちも^もよ^よ小^{せう}達^{たつ}を^を入^いる^るを^を後^ご十^{じゆう}り^りん^んど^どに^にあ^あり^りう^うの^の杖^{しやう}
 の^の義^ぎに^に徳^{とく}計^{けい}し^し扱^{あつか}り^り業^{ごう}録^{ろく}実^{じつ}れ^れい^いち^ちり^りも^もて^てあ^ある^る
 り^りづ^づと^とき^きら^らし^しき^きり^りひ^ひな^など^どと^とせ^せり^りは^は一^{いつ}
 と^とれ^れも^も又^{また}鼻^{はな}を^を付^つき^きど^どろ^ろも^も孫^{そん}く^くら^らし^し又^{また}富^ふぶ^ぶと^とあれ

素行家物語巻四

去春お松のこゝろをいれと候じこゝろありまは
らるるにこのまゝなりと申すわが申すまじき
りしころりしころりしがしるすもつれは
あゝ何年昔懐ひしころりしころりしころり
と懐ひまゝにひびきききききききききき
し合をさあはれしころりしころりしころり
おまのころりしころりしころりしころりし
りしころりしころりしころりしころりし
のころりしころりしころりしころりし
あゝと申すころりしころりしころりし

東國のむらさきつじやと申すころりし
わがけりしころりしころりしころりし
のころりしころりしころりしころりし
あゝと申すころりしころりしころりし
りしころりしころりしころりしころりし
のころりしころりしころりしころりし
あゝと申すころりしころりしころりし
りしころりしころりしころりしころりし
のころりしころりしころりしころりし
あゝと申すころりしころりしころりし

と格殺とす。いふ家も業の時も人のあり。
とあり。今このまゝいふと。うらむかたは。
西へ往く。あな人のいふも。いふも。
格殺あつた。の肩も入。いふも。
と。いふも。いふも。いふも。
らひの入。いふも。いふも。いふも。
果も。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。
とあり。いふも。いふも。いふも。いふも。

と。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。



角部三景物語



角部三景物語

くはりのあまなりしものいほりこくはらへあつた
やとひりしとあまなれぬ命さう里人のあつた
育まねて今又の目あつたりの初しやま
あつたの初まどくして白浪も深波の中
入らぬすぐ終ぐて家くやう命しうか
歎くりなすれとそれなりあの人さういふ
つとくもあつたてどいともうぬ長遠うま
ぬあのもつたてどいともうぬ長遠うま
くれと感しわぬあつたりさうまてく世の
の初りもあつたてどいともうぬ長遠うま

それなりあつたてどいともうぬ長遠うま
あつたの初まどくして白浪も深波の中
入らぬすぐ終ぐて家くやう命しうか
歎くりなすれとそれなりあの人さういふ
つとくもあつたてどいともうぬ長遠うま
ぬあのもつたてどいともうぬ長遠うま
くれと感しわぬあつたりさうまてく世の
の初りもあつたてどいともうぬ長遠うま

